

～日本からカンボジアへ地雷除去機材の供与～ 「第6次地雷除去活動機材整備計画」引渡式

2月16日（木）、シアムリアップのカンボジア地雷除去センター（CMAC）第四支部において、カンボジア政府主催、地雷除去機材引渡式が開催されました。本援助は、内戦時代に埋設された地雷の除去を推進するため、カンボジア政府からの要請に基づき、日本製の高度な技術を活用した灌木除去機8台や運搬用車両など約13億円相当の地雷除去機材をCMACに供与するものです。同式典には、ソク・アン副首相をはじめラタナCMAC長官やシアムリアップ州知事等多くの関係者に加え、2,000人以上の村人が出席する中黒木雅文駐カンボジア日本国大使より、ソク・アン副首相に対し、シンボルキーが手渡されました。

式典では、州知事の挨拶、CMAC長官の地雷除去活動報告に続き、黒木大使から、危険と隣り合わせの任務にも拘わらず地雷除去を担当してきたCMACに敬意を表するとともに、「地雷除去は人道的見地のみならず、経済社会開発においても重要な課題であり、この観点からも日本は地雷除去の推進のため、様々な協力を通じてカンボジアの地雷除去活動を支援してきた。」と述べました。

これに対し、ソク・アン副首相は、日本国民及び日本政府に対する謝意を述べたうえで、「未だに埋設されている数百万もの地雷は、直接的・間接的に人々の生活を脅かしているが、日本からの理解と協力によってこれらの地雷除去が支援されていることを忘れてはいけない。」と述べました。

その後、黒木大使よりソク・アン副首相に対してシンボルキーが手渡されるとともに、同副首相より黒木大使に友好勲章が授与され、黒木大使、同副首相ら一同が地雷除去機材の状況を視察し、式典は和やかな雰囲気の下に終わりました。



左から、黒木大使、ソクアン副首相
（背景は日本から供与された地雷除去機材）



地雷被害者から黒木大使への謝意が
示される一幕も